

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
発行日 毎月 1 日
平成 29 年 4 月号



園芸産出額全国 1 位の奪還に向けた 「力強い産地づくり」の推進について

千葉県農林水産部生産振興課
課長 小柳 享

本県の園芸は、県農業産出額の約半分を占める重要な部門であり、平成 27 年の産出額は、前年比 134 億円増加の 2,101 億円で、北海道、茨城県に次ぐ全国第 3 位となっています。県では、千葉県農林水産産業振興計画で掲げた「園芸産出額全国第 1 位」の奪還に向け、各種施策を展開し、生産者の所得向上につながるよう取り組んでまいります。

1 野菜の振興対策

近年、野菜の加工業務需要は野菜消費の 6 割程を占めています。家庭消費用野菜は、多店舗を保有する大規模量販店での購入がほとんどを占めており、店側からは、均質かつ一定量のロットが求められています。

そこで、県では平成 26 年度から（公社）千葉県園芸協会を核に各産地の出荷規格の統一や荷姿の共通化を図り、産地連携により「オール千葉」でロットを確保するなど、量販店や加工業務等大口需要に対応できる産地づくりに取り組んでいるところです。

現在、トマト、ねぎ、さつまいも、にんじん等 7 品目について、各産地 J A 等で構成する品目別協議会を設置し、取組を進めており、トマトなどでは、産地の出荷規格を統一したことで、販売単価が向上するなど、効果が出始めております。集出荷場の機械の規格の違いにより、出荷箱の統一が難しいなどの課題もありますが、今後とも、本県産野菜の評価向上に向け、可能などころから産地連携を積極的に進めていくこととしています。

2 果樹の振興対策

本県のナシは日本一の生産額を誇り、主力品種の「幸水」は昭和 50 年代に急速に普及しましたが、現在、樹齢 30 年を超え、生産力が落ちる「老木」の割合が増加し、計画的に改植を進めていくことが重要です。

そのためには、改植用の大苗（2 年間で 4 m 程度に育成した苗木）を生産者に供給する体制整備が不可欠であり、その供給体制について、早急に検討を進めていくこととしています。

また、南房総特産のびわやかんきつは、急斜面での栽培が多く、生産量が減少しているため、簡易ハウスでの栽培や新たな品目の拡大など、平地で観光需要にも対応できる生産技術の確立に向け、本年度から現地での検討を始めたところです。

3 花植木の振興対策

歴史ある安房地域の切花をはじめ、各種鉢花や海外輸出される植木など多様な品目が栽培されており、品目の多さは本県の強みだと考えおります。2020 年東京オリンピック・パラリンピックでは、一部競技が県内で開催されることから、会場周辺を本県花植木で装飾し、国内外からの来訪者をおもてなしできるよう、取り組んでいくこととしています。まず、県内の生產品目・数量を把握し、大会関係者へ会場装飾やビクトリーブーケ用花材として PR するとともに、真夏の開催に合わせ、耐暑性品目の検討と本県産花きで装飾する気運の醸成を目的に、会場となる幕張メッセ周辺の企業の協力を得て夏場の花壇づくりコンテストを実施しているところです。

オリンピック・パラリンピックをチャンスと捉え、生産者の所得向上につながるよう生産者団体等と協力し、積極的に取り組んでまいります。

「第 4 回アグリろっく™ in 千葉」について

全国農業協同組合連合会 千葉県本部
営農販売企画部 販売企画課 山田 雄一

全農千葉県本部は、地域農業の活性化などを目的として、千葉県産農畜産物地域ブランド商品開発コンテスト「アグリろっく™ in 千葉」～地域農業活性化プロジェクト～を主催しています。

この度、第 4 回となる本コンテストの最終審査会を開催しましたので、これまでの取組を御紹介します。

1 コンテストのテーマ

「見つけよう・育てよう・発掘しよう・元気な千葉県」
新鮮な発想と企画で、全国にアピールできる千葉県発
ヒット商品を生み出そう!!

2 コンテストの目的

- (1) 生産者と消費者が連携し、それぞれの視点・想いを融合した「商品」を開発し、県産農畜産物の知名度向上と千葉県産ブランドの創出を図ります。
- (2) 地域特産品を活用した「商品」開発を通じて、6 次産業化につなげます。
- (3) 商品開発に関する情報発信を通じ、J A 直売所等への誘客を図り、売り場の活性化につなげます。
- (4) 販路の確保・拡大により、産地振興や生産拡大につなげ、所得の向上と地域の活性化を図ります。

【取組経過：①参加者の公募】

平成 28 年 8～9 月、県内の生産者と関東 1 都 6 県の消費者から参加者を公募しました。

【取組経過：②チームマッチング】

10 月、千葉市内においてチームマッチング(キックオフ)を開催しました。生産者は自らが生産する農畜産物を、消費者は関心のある農畜産物を参加申込書のアンケートで回答し、その結び付けなどにより 8 つのチームを組みました。

【取組経過：③1 次選考(書類審査)】

11 月、8 チームが考案した 16 件の県産農畜産物を使用した商品企画アイデアの書類審査による 1 次選考を実施しました。審査の結果、最終審査会に進む 5 チームが決定しました。

【表彰結果】

順位	チーム名	商品企画タイトル	テーマとする品目
最優秀賞	チーム・ホワイトボール	ホワイトボールシチュー ～まるごと KATORI～	ホワイトボール (こかぶ)
優秀賞	葱坊主	ねぎッペ(ねぎ餅)活用編 ねぎッペ餃子	ねぎ・ふさのもち (もち米)
特別賞	市原フルーツセミナー	梨っ娘ノース 混ぜるの?かけるの?どうするの?	梨・米(米麴)
特別賞	あじさいねぎマニア	あじさいねぎのフルコース	あじさいねぎ (わけねぎ)
特別賞	チーム:るば一部	ルバーブピューレ	ルバーブ

【取組経過：④最終審査会】

平成 29 年 2 月 21 日(火)、千葉市内において最終審査会を開催しました。5 つのチームが、商品企画でテーマとした品目や産地への情熱を込めてプレゼンを行いました。また、今回は商品企画の試食提供を行い、各チームのメンバーが、来場者に対して PR や提案、また情報交換などを行いながら、メニューを振舞いました。厳正な審査の結果、チーム・ホワイトボールの商品企画、東庄町産のブランドこかぶ「ホワイトボール」を主役とした「ホワイトボールシチュー～まるごと KATORI～」が最優秀賞の栄冠に輝きました。

同チームは、生産量全国第 1 位の、こかぶ・マッシュルームをはじめ、さつまいもやベーコンなど J A かつりの農畜産物を使用したホワイトボールシチューを考案しました。食材を県産農畜産物に置き換えれば、「ホワイトボールシチュー～まるごと CHIBA～」としても商品化が可能です。

同チームのプレゼンでは、ホワイトボールの機能性に加え、①規格外の農産物を有効活用、②幅広い年齢層がターゲット、③レトルト食品として商品化することで保存食としても利用可能、などのコンセプトが挙げられ、県産農畜産物の魅力を伝える意気込みが語られました。

表彰式では、各賞の受賞チームに対し、副賞として商品券と房総ポークウインナーセットが贈呈されました。

3 今後の取組

全農千葉県本部は、今後、関係企業・団体と連携し、本コンテストにて提案された商品企画の商品化・企画化に取り組み、地域農業の活性化と 6 次産業化の支援につなげていきます。



花植木ニュース



県産花植木の魅力 PR のための 花植木の空港展示について

千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室
(千葉県花き振興地域協議会)

千葉県花き振興地域協議会では、平成 29 年 1 月 20 日 (金) から成田国際空港ターミナル内で、本県特産の植木を活用した日本庭園や県産花きを活用したディスプレイ、日本の伝統文化である「生け花」を展示しました。

1 はじめに

当協議会は、花植木の生産・供給体制の強化、輸出及び需要の拡大を通じて、生産振興などに資することを目的に、県、生産者団体、流通・小売業者、華道団体を構成員として平成 26 年に設立された団体です。今回は、平成 28 年度に、国産花きイノベーション推進事業を活用して実施した成田空港における花植木展示の概要を御紹介します。

2 展示期間及び展示場所

(1) 植木を活用した日本庭園

(担当：千葉県植木生産組合連合会)

本県の伝統的な造形技術により仕立てられた植木を活用した日本庭園

展示期間 1 月 20 日 (金) ～ 2 月 2 日 (木)

(2) 県産花きを活用したディスプレイ

(担当：(一社)JFTD 千葉支部)

早春を彩る県産の花々を使ったフラワーアレンジによるディスプレイ

展示期間 1 月 20 日 (金) ～ 1 月 26 日 (木)

(3) 生け花の展示

(担当：千葉県茶華道協会)

農村発祥の伝統習俗「繭玉」と県産の花々を使った華やかな生け花

展示期間 1 月 20 日 (金) ～ 1 月 26 日 (木)

3 結果

成田空港利用客のうち海外の方を中心に、植木を活用した日本庭園について 100 名、県産花きを活用したディスプレイと生け花について 103 名にアンケート調査を実施しました。

植木の展示では、「伝統的な樹芸技術で作られた植木を知っている」が 51 名、「このような日本庭園を見たことがある」が 47 名で、日本らしさが出ている、松が良い、美しい等の意見がありました。また、花きの展示では、「展示内容が良い」が 85 名、「千葉県が花の産地だということが分かった」が

97 名、「生け花のことを知ることができた」が 95 名で、きれいな花で癒される、日本の春をイメージしている等の意見がありました。

今後とも、県では、県産花植木の魅力発信や生け花などの伝統文化の普及などに取り組み、県産花植木の需要拡大につなげてまいります。



日本庭園



県産花きのディスプレイ



生け花

花植木ニュース



輸出用植木コンテナ栽培用施設の 建設マニュアルが作成されました

千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

千葉県植木生産組合連合会輸出入部会は、各国の国際園芸博覧会や商談会へ積極的に参加し、県産植木の輸出拡大に取り組んでいます。EU諸国向けではセンチウ対策が課題であり、平成28年度にセンチウ対策のコンテナ栽培施設の建設に取り組み、マニュアルを作成しました。

1 背景

本県の植木輸出は平成19年から本格化し、樹齢の古い大型イヌマキ等高単価の品目を中心に輸出金額を伸ばし、平成25年には42億円となりました(県生産振興課調べ)。その後、中国の景気の後退などにより、輸出額は一段落しています。樹齢100年を超える大型のイヌマキの造形樹は少なくなっており、今後、輸出額を増加させていくためには、比較的短いサイクルで生産できるキンメツゲなどの中小型植木の輸出先の開拓やEU諸国向け植木のセンチウ対策等が課題となっています。

2 事業の活用

そこで、輸出入部会では、輸出を効率的に行う技術実証に取り組むため、国の国産花きイノベーション推進事業を活用し、相手国の検疫条件(地面からの隔離栽培管理)を満たす低コストな管理施設を設置するとともに、その建設マニュアルを作成しました。



単管パイプとクランプで組み立てた骨組み

3 内容

建設した施設は、単管パイプ、クランプ、ジョイント、防風網、防草シート、パレット等ホームセンターで入手できる材料で植木生産者自ら建設し、400㎡の施設建設にかかる材料費は約50万円でした。

手作りですが、墨出し器で水平を測り、バックホーを使って柱を地中1.2mまで打ち込むなど、耐久性を高める工夫をしています。

単管パイプとパレットで組み立てた盆栽棚は簡易な構造ですが、輸出検疫をクリアできる高さ(50cm)に設計されています。

マニュアルは必要な材用一覧、コスト試算及び工程ごとに写真を掲載するなど、分かりやすく作成されています。



単管パイプとパレットで組み立てた盆栽棚

4 今後の取組

平成29年度は、プラスチックポットに移植した植木を栽培し、施設内で防除を行い、センチウ密度を調査し、隔離栽培によるセンチウ対策の実証に取り組めます。



TYLCV に感染したトマト黄化葉巻病抵抗性品種はウイルスの伝染源になる

農林総合研究センター 生物工学研究室
研究員 高橋 真秀

トマト黄化葉巻病抵抗性品種も、トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) に感染すると植物体内にウイルス粒子が増殖して蓄積され、これを吸汁したタバココナジラミは健全株へウイルスを伝播することが現地調査により明らかになりました。

1 はじめに

トマト黄化葉巻病 (TYLCV) は、タバココナジラミによって媒介されるウイルス病です。近年、トマト黄化葉巻病に感染しても症状を抑えられる抵抗性品種が複数販売され、千葉県においても黄化葉巻病対策として導入する生産者が増えつつあります。抵抗性品種は、ウイルスに感染しても症状を抑えることができますが、ウイルス増殖を完全に止めることはできないため、タバココナジラミの防除を怠ると抵抗性品種がウイルスの伝染源になる危険性が心配されていました。

そこで、タバココナジラミの多発生が確認された現地の抵抗性品種栽培施設において、抵抗性品種がウイルスの伝染源となる危険性について調査を行いました。

2 抵抗性品種株内のウイルス濃度

施設内の抵抗性品種トマト株から 3 株を無作為に選び、植物体内のウイルス濃度を測定したところ、どの株も症状は見られませんが高濃度のウイルス粒子 (1000 万~10 億個/トマト葉の DNA (μ g)) が存在し、感染していることが分かりました (図 1)。

また、3 株中、2 株ではタバココナジラミが高

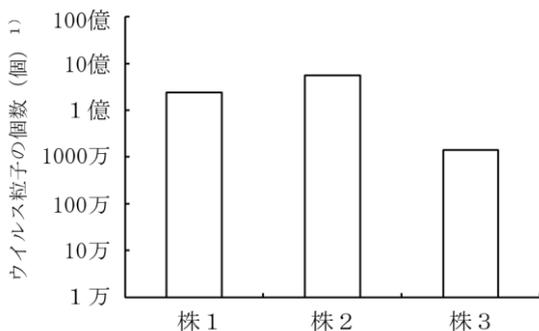


図 1 トマト黄化葉巻病抵抗性品種栽培施設から採取したトマト葉内の TYLCV 濃度

注 1) トマト葉から回収された DNA 1 μ g に含まれる個数

率でウイルスを保毒する目安である 1 億個を超えていました。

3 施設から採取したタバココナジラミによる TYLCV 伝播

これら 3 株の周囲の地点 1~3 から採集したタバココナジラミ成虫についても、ウイルスを持っているか調査しました。その結果、調査個体の 67~100% がウイルスをもつ保毒虫となっていました (データ略)。また、これら採集した成虫を健全なトマトの感受性品種に接種したところ、3 地点のうち 2 地点の成虫を接種した株の 50~75% で感染が認められました (図 2)。このことから、感染した抵抗性品種を吸汁したタバココナジラミがウイルスを保毒し、伝播することが分かりました。

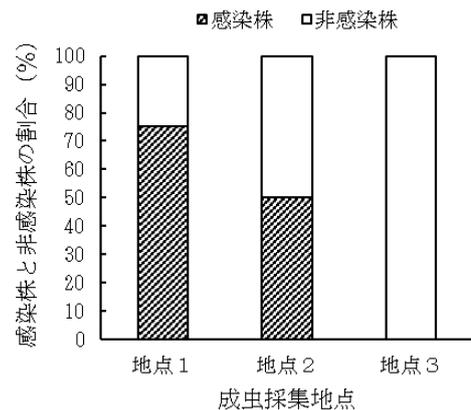


図 2 抵抗性品種栽培施設で採集したタバココナジラミを接種された感受性品種トマト株におけるウイルスの感染

4 おわりに

本調査から、トマト黄化葉巻病抵抗性品種を栽培した場合も、タバココナジラミの防除を適切に行わないと、ウイルスの伝染源となる危険性が示されました。したがって、抵抗性品種導入時もウイルスやタバココナジラミ対策の「入れない」「出さない」「増やさない」は必須です。

県産農林水産物の輸出に チャレンジしよう！

～補助事業実施者募集のお知らせ～

県では、県産農林水産物の輸出促進に向けて、輸出にチャレンジする事業者を支援する「千葉の農林水産物輸出促進事業」の事業実施希望者を募集します。

本事業は、昨年度から事業費を大幅に増額するとともに、これまで設定していた補助額の上限を撤廃し、特に、新たな国・地域や品目での輸出に取り組む事業者を重点的に支援します。下記のとおり募集しますので、海外への販路開拓・拡大を目指す生産者・団体は、是非御応募ください。

1 対象団体

市町村、農業協同組合、営農組織など。

2 対象商品

本県産の農林水産物及びその加工品。※対象とする加工品は、事業実施計画書提出後に行われる選考委員会において認められたものとします。

3 補助対象

海外市場調査、海外見本市出展、輸出に向けた商品開発・試験栽培、試験輸出、海外での販促活動等に要する経費など。

4 助成の内容

補助率：事業経費の 2 分の 1 以内

予算額：15,000 千円

5 応募方法

4 月上旬頃に県ホームページで公開される実施要領等に基づき、事業実施計画書を御提出ください。

6 提出期限

5 月上旬（予定）

7 選定方法

事業実施計画書受付後、県が設置する選考委員会により審査し、補助金交付対象者を選定します。

8 お問合せ先

千葉県農林水産部流通販売課 販売・輸出促進室

TEL：043-223-3086

「世界らん展日本大賞 2017」 を終えて

千葉県洋らん生産者組合

世界 20 の国と地域から参加がある世界最大級の蘭の祭典「世界らん展日本大賞 2017」が、「蘭に、ときめく。」をテーマに 2 月 11 日（土）から 2 月 17 日（金）までの 7 日間、東京ドームで開催されました。

この催しは、国内外の蘭愛好家や生産者が情報を交換する場であるとともに、一般の方に蘭に親しんでもらうため開催され、今年で 27 回目を迎えました。

千葉県洋らん生産者組合では、本県産の洋らんの素晴らしさを PR するため、毎年ディスプレイ審査部門に出展しており、過去に最優秀賞を 6 度受賞しています。今年は薦岡展示委員長を中心に、組合員が大切に栽培した蘭をふんだんに使って 2 日間かけて展示を行いました。木（ぼく）と滝を配した自然味あふれるデザインにより、展示テーマ「輝く蘭」の名のとおり蘭の魅力を引き出し、奨励賞を受賞しました。

開催期間中は、多くの来場者が当組合の展示の前で記念撮影する様子が見られ、千葉の洋らんの魅力を感じていただけたと思います。



展示テーマ「輝く蘭」のディスプレイの前で